

栗東市行政改革懇談会議事要約

平成 29 年 12 月 25 日（月）午後 2 時 45 分～
栗東市役所 4 階 第 3・4 委員会室

【出席者】

委員：新川会長、清水憲委員、山口委員、小南委員、黒田委員、森野委員、清水久委員
江竜委員、内記委員、武村委員

事務局：市長、副市長、教育長、議会事務局長、市民政策部長、政策監、総務部長、福祉部長、子ども・健康部長、環境経済部長、建設部長、建設部技監、教育部長、元気創造政策課事務局担当

1. 開会

2. 委員の委嘱について

（省略）

3. 座長・座長代理の選出について

（省略）

座長：新川委員、座長代理：清水憲委員

4. 協議事項

（１）第七次栗東市行政改革大綱の進捗状況について

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

龍谷大学との包括連携協定についての具体的な進捗状況を教えてもらいたい。

事務局

龍谷大学と今年の 7 月 11 日に包括連携協定を結び、既に今年度の事業として、広報課の PR 動画制作講座や商工観光課のアンケート調査等に協力いただいている。

今後も龍谷大学を含めた大学や関係機関との連携により様々な分野において官民協働で事業を推進していきたいと考えている。

委員

ふるさと応援寄附について、栗東市では返礼率をどのように設定しているのか。また、現在までにどれぐらいの寄附が集まっているのか教えてもらいたい。

事務局

今年の9月に見直しを行い、5つの寄附金額区分を設けてそれぞれ記念品の送付を行っている。現在の記念品の品数は66品となっており、返礼率については、総務省からの通知に沿う形で寄附金額の3割以下としている。

寄附金額については、11月末現在で約2,000万円となっており、昨年度の同時期と比較すると約1.4倍の寄附をいただいている。

委員

資料2の1ページの詳細項目「市民へのきめ細かな情報提供・情報共有」の評価が4となっている一方、2ページの詳細項目「コミュニケーション豊かな主体的な風土改革への改革」の評価が2となっている。

外部に対しての情報発信は大切であり、まちづくり座談会等実施されているが、内部でのコミュニケーションも大切であり、組織のあるべき姿を検討する必要があるのではないかと考えている。

事務局

「コミュニケーション豊かな主体的な風土改革への改革」の評価について、第七次行政改革大綱の計画期間である平成31年度までにコミュニケーションの強化・充実にかかる取組みの検討・実施という当初の目標に対して具体的な取組みまで至っていないことから2という評価を行なった。

風通しのよい組織づくりは懸案事項であると考えており、住民福祉や市民サービスの向上につながっていくような組織のあり方を検討していく必要があると考えている。

「市民へのきめ細かな情報提供・情報共有」の評価について、今までのメディアだけでなく、また、情報発信の仕方についても単なるお知らせだけではなく、市民の方などを巻き込んだ形で取組んでいることから4という評価を行なった。

今年度から市民と一緒にSNSでの情報発信を行なう取組みをしているが、まだ始まったばかりなので、記事の掘り下げなどによる内容の充実を図っていく必要があると考えている。

委員

ナレッジマネジメントとはどういう意味か。

事務局

ナレッジマネジメントとは、民間企業で多く取り入れられている手法で知識や経験等を共有化することで効率化や生産性の向上を図り、組織力の向上につなげるという取組みである。

委員

P. 7の改革項目「受益者負担や使用料、補助金・負担金の基準づくり・実践」について、自己評価では受益者負担等の基準の作成に至っていないとあるが、受益者とは誰のことを指していて、具体的にはどのような事例があるのか。

事務局

アウトプット指標では、受益者負担や使用料、補助金・負担金と歳入歳出が混在した記載となっているが、基本的に受益者負担とは、水道・下水道料金や証明書の発行手数料等あらゆるものが含まれており、以前に見直したことはあるが、コスト的にどうかというのを第七次行政改革大綱の計画期間中にもう一度見直すということで項目にあげている。

また、団体への補助金・負担金についても適正なのかということを、団体の自主運営を図りながら今後、どう整理していくのか検討していかなければならないと考えている。

委員

龍谷大学との連携について、連携することが目的ではなく、連携して何か取組むことが目的であると思う。また他の取組みでも手段と目的が混同しているように思う。

また、会議の運営の仕方について、今回の会議結果を受けて、次年度予算に反映することが大切で、今のタイミングでは、早くても来年度の補正予算になってしまうため、会議をやること自体が目的となっているように思う。

事務局

基本的に計画を策定し、進捗状況を管理して、計画を見直していくというPDCAサイクルを短い期間で回していくことが必要であると認識している。

計画が膨大な量になると、進捗状況を把握するだけの業務になる傾向があり、把握したものをどう評価していくかというのは、期間的にも人員的にもできていない状況であるが、半年を一つの区切りにするか年度を一つの区切りにするか、それぞれの考え方があなかで、今後どのように運営していくか検討していきたい。

座長

上半期の進捗状況を早い段階で当懇談会に諮り、その結果をもって来年度予算に反映できるようにというのが従来からの位置づけであり、一年間の評価についても、第3四半期が終われば一定の評価ができるのではないかという意見がありましたので、次年度以降、検討いただきたい。

委員

アウトプット指標について、具体的な数値を目標としてあげているが、自己評価につながっていないように感じるので、アウトプット指標を意識した自己評価になれば、もっと良い評価になるのではないかとと思われる。

また、当懇談会は公開されており、職員の方のモチベーションを上げるためにも、

進捗管理がきちんと行なわれて、やりがいのある仕事であるべきと思うので、評価に強弱をつけてもよいのではないかと思います。

事務局

アウトプット指標の具体的な数値について、今回の資料には掲載していないが、数字で表せる指標については、自己評価についても数値で評価することにより、目標が達成したかどうかわかりやすい資料となるようにしていきたいと考えている。

また、内部の資料についても同様にわかりやすい資料となるよう調整していく。

委員

P. 5の改革項目「新産業創造イノベーションの推進」について、低い評価となっているが、例えば栗東市は、約半分の面積が森林で占めており、金勝生産森林組合がＪークレジットを導入しているなど、栗東市の地域性や地域資源等の特性を活かした取組みは検討できないか。

事務局

新産業創造イノベーションの推進にあたっては、官学金連携の組織・ネットワークづくりを目指し情報収集を行なっているところであるが、先日、林業団体からＪークレジットを含めた内容の要望をいただいたように、各機関や団体等の新たな活動や動きを受け止め、行政としてどのように取組めるか今後検討していきたいと考えている。

座長

第七次栗東市行政改革大綱の上半期の進捗状況について、全体としては、自己評価について目標と手段が入れ違っているものがあるという意見がありましたので、本来達成すべき目標を踏まえた評価になるよう心掛けてもらいたい。

具体的には龍谷大学との連携、協力や様々な会議や他市との交流による情報収集はそれ自体が目標ではなく、取組みを通じて改革が進むよう取組んでももらいたい。

また、当懇談会での評価をどのように来年度予算につなげていくか、会議の運営方法について改めて検討してもらいたい。

アウトプット指標について、指標とそれに対する自己評価がメリハリのある、よりわかりやすい表記となるようにという意見がありましたので見直していただき、また、わかりづらい言葉については、丁寧な説明をお願いします。

以上の点を踏まえて、上半期、下半期それぞれの進捗状況の管理を全庁的に統一した形で取組めるようにしてもらいたい。

5. その他

- ・特になし

6. 閉会

以上